

調査問題の分析

本資料の見方

付けたい力の 明確化

問題や授業において「付けたい力(資質・能力)」を示しています。付けたい力を明確にした上で、そのために必要な学習活動や適切な支援・手立てを計画することが大切です。

新学習指導要領 注目ポイント

学習指導要領において、関連する内容等を示しています。
※調査問題は、「学習指導要領の領域」「評価の観点」を含め、学習指導要領に基づいて作成されています。



「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりについて、プロセスごとに示しています。



「個別最適な学び」や「協働的な学び」のツールとして、1人1台端末を活用した授業の有効性について示しています。

小学校国語	2 ページ
小学校算数	6 ページ
中学校国語	10 ページ
中学校数学	14 ページ
中学校英語(聞くこと、読むこと、書くこと)...	18 ページ
児童生徒質問紙	22 ページ
学校質問紙	25 ページ

令和5年6月

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

小学校 国語

【全体を通して】

- ・大問数3問、小問数14問は昨年度と同様だが、選択式の問題が1問増え、短答式の問題が1問減った。
- ・昨年度と同じく、学習指導要領の指導事項に即して問題が作成されており、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」が一体的に出された。
- ・目的に応じて、複数の資料から必要な情報を取り出して整理し、自分の考えをまとめる力を問う問題が多く出された。
- ・学習指導要領に新設された〔知識及び技能〕の(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「カ 文や文章」、(2)「情報の扱い方に関する事項」の「ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。」「イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。」に関する問題が出題されるのは初めてである。
- ・大問2四では、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の「考えの形成」に関する指導事項が初めて取り上げられた。

【読み解く力に関連する問題】

- 大問1 学校の田んぼで取り組んだ米作りについての文章を書く場面において、
 - ・原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうか。
 - ・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうか。
 - ・文章の種類とその特徴について理解しているかどうか。
- 大問2 健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分ができそうなことを考えてまとめる場面において、
 - ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうか。
 - ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうか。
 - ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうか。
 - ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうか。
- 大問3 登下校でお世話になった見守りボランティアにインタビューする場面において、
 - ・必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうか。
 - ・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうか。



【指導改善のポイント】

- ☆育成を目指す資質・能力を明確にし、それを身に付けるのに適した言語活動を設定する。
 - ・目的意識を明確にし、児童が主体的に取り組むことのできる言語活動を設定する。
 - ・複数の資料から、目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりする学習活動を取り入れる。
 - ・文章を読んで理解したことについて、既有的知識や理解した内容と結び付けて自分の考えをまとめる指導を行う。
- ☆文章の種類や特徴について理解できるように指導する。
 - ・紹介、提案、推薦、案内、解説、物語といった文章の種類と特徴について、国語科で理解できるよう指導することに加え、他教科で取り扱う際にも意識して指導を行う。
- ☆目的に応じた情報の扱い方に関する事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ・目的に応じて、複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりするなど、図示することによって情報を整理する活動を取り入れる。
 - ・図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確にしたり、思考をまとめたりできることを実感するように指導する。

○調査問題の一覧

問題番号	問題の概要	出題の意図	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			
			知識及び技能			思考力、判断力表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
			(1)	(2)	(3)	A	B	C							
			に言葉に関する事項	に関する事項の扱い	に我が国の言語文化	と話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと							
①	一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する		5・6ア						○			○		
	二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く					5・6工			○					○
	三(1)ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6工						○					○
	三(1)ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん)		5・6工						○					○
	三(2)イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する(くらべて)		5・6ウ						○				○	
	四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する		5・6カ						○				○	
②	一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する						3・4ウ		○				○	
	二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する						5・6ウ		○				○	
	三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する		5・6イ						○				○	
	四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く						5・6オ		○					○
③	一(1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する					3・4工			○				○	
	一(2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する					3・4工			○				○	
	二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く					5・6工			○					○
	三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する		5・6キ						○				○	

学習指導要領
注目ポイント

- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
（「情報の扱いに関する事項」 第五学年及び第六学年 イ 情報の整理）
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
（「C読むこと」 第五学年及び第六学年 才 考えの形成）



食事と運動には何か関係があるのかな？読んで調べてみるよ。ありがとう。

私は、食事の面から考えているよ。食事について書かれた資料の中に運動のことも出てきたよ。この【資料3】も読んでみる？

ぼくは、運動面から健康について考えているんだけど、まだ考えがまとまらないんだ。

私は、睡眠が健康にどんな影響を与えているか調べているよ。睡眠は身体の成長にも大切だと本に書いてあったよ。



② 情報を分析・整理をする。
(2) 友達と考えを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりする。



二つの資料を読んで、運動すると持久力や筋力を高める働きがあることが分かった。持久力を高める運動には軽いジョギングや縄跳びがある。縄跳びならぼくにもできそうだな！

正答例



健康に過ごすためには、自分に合った運動をしたり、バランスのよい食事をとったりすることが大切だと分かりました。わたしは、これから、縄跳びを続けて持久力を高めたり、苦手な野菜も食べたりしようと思います。



③ 再構築する。

・複数の資料を選んで読み、分かったことを基に、これから自分ができそうなことを書く。



運動に関係がありそうな言葉を囲もう。栄養素によって働きが違うのか。運動と栄養素の働きも関係がありそうだから、線で結ぼう。

健康に過ごすためには、運動を続けることが効果的だけど、元気に運動するために栄養バランスのよい食事も大切なんだな。

【資料3】 相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

栄養素の働き

規則正しく食事をとることにより、脳が活発に働いたり、元気に運動したりすることができます。ただし、同じものや好きなものばかり食べていると、栄養がたよってしまい、つかれやすくなったりいらいらしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主に「エネルギーのもと」になります。肉や卵などは、主に体をつくるもとになります。「筋肉がついたり」、けがが治りやすくなったりします。野菜や果物などは、主に体の調子を整えるもとになり、病気にかかりにくくなります。

〈栄養素の主な働きと食品の例〉

<p>主にエネルギーのもとになる</p>  <p>主に体をつくるもとになる</p>  <p>主に体の調子を整えるもとになる</p> 	<p>米、パン、バターなど</p>  <p>肉、卵、牛乳など</p>  <p>野菜、果物など</p> 
---	--



公民館や、近所の病院にもパンフレットが置いてあるのを見ることがあるよ。

学校図書館に行って探してみよう。学校司書の先生に相談してもいいね。

ぼくは、運動が好きだから、運動面から考えてみたいな。運動に関する本や資料を探してみよう。

健康に過ごすために、何ができるかな。そういえば保健の授業で、健康には、睡眠・食事・運動が大切だと習ったね。

(五)読んで分かったことを基にこれから自分ができそうなことを考えて書く。

(四)友達と考えを伝え合うことを通して、考えを広げたり、深めたりする。

(三)複数の本や資料から、自分にとって必要な情報を取捨選択したり、関係付けて整理したりする。

【学習の流れ】(一)単元の目標を理解し、学習の見通しをもつ。

(二)目的をもち、複数の本や資料で調べる。

【言語活動】「健康に過ごすために自分ができそうなこと」をまとめよう。



○学習の目的を理解し、見通しをもつ。

- (条件)
- 資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書くこと。
 - 分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書くこと。
 - 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

2 複数の本や資料を読み、自分の考えをまとめる(運動と食事)

出題の趣旨

目的に応じて必要な情報を見付けたら、情報を関係付けて整理したりして、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

四 相田さんは、【資料1】、【資料2】、【資料3】を読み、運動と食事について分かったことをもとに、「これから自分ができそうなこと」を考えてまとめようとしています。あなたなら、どのようにまとめますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書くこと。
- 分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書くこと。
- 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。



- ①情報を取り出す。
 - ②情報を分析・整理をする。
- (1)【資料1】 【資料2】読んで、運動の効果と種類についてメモに整理する。

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

運動で健康な体をつくろう！

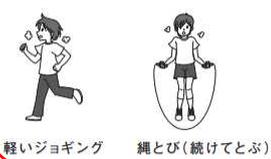
運動には、筋力や持久力などを高めるほかに、病気への抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちがリフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするといの？

運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のように、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体のやわらかさを高める運動や、たくみな動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休み時間の外遊び、犬の散歩、階段の上り下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくると効果的です。

主に持久力を高める運動の例



主に筋力を高める運動の例



ICTの
有効活用

1人1台端末を用いることで、目的に応じた資料を蓄積することができる。また、目的に応じて重要な言葉や図に線を引いたり囲んだりすることで、情報を関係付けながら整理ができる。

【資料1】運動について書かれた本の一部

運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だと言われています。

私たちが日ごろ行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体にたくさんの酸素を取り入れながら続けること、持久力を高める運動や、瞬間的に大きな力を出すことで筋肉の力を高める運動などです。

生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができます。その際は、目的に応じた運動を選ぶとともに、健康状態や体力に合わせて自分のペースで行うことが大切です。

小学校 算数

【全体を通して】

- ・昨年度の問題と比較すると、大問数と小問数は同数であった。選択式の問題数は1問減り、短答式の問題数は1問増えた。記述式の問題数は同数であった。
- ・1の位が0の2位数同士の乗法の計算や2位数÷1位数の筆算をする手順とその意味理解、2つの数量が比例するかどうか判断する問題など知識・技能を見る問題が9問出題された。
- ・ファイルを教室の棚に並べる場面について、計算の仕方を考え、表現し判断する力が問われた。
- ・1週間に運動をした日数と人数や運動が好きかどうかについて調べた結果を表やグラフに表し、そこから、その特徴を見だし、考察する力が問われた。

【読み解く力に関連する問題】

○大問3 日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理すること（分配法則）において、

- ・（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる。
- ・数量の関係に着目して問題場면을解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えや式を言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかについて、判断できるかをみる。

○大問4 目的に応じてデータの特徴や傾向を読み取ったり捉えたりすること（運動調べ）において、

- ・示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。



【指導改善のポイント】

☆日常生活の場면을解釈し、数量の求め方を式に表すことを通して、問題の解決に式を用いることができるようにする。

（大問3より）

- 問題場面から、数量を取り出し、絵や図に表す活動を通して、数量の関係を捉える場面を設定することが大切である。
- 式の意味を読みとることができるように、（ ）を用いた式や加法と乗法が混合した式を問題場面と関連付けて考える場面を充実させることが大切である。

☆棒グラフから、項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴などを読み取ることができるようにする。

（大問4より）

- 2つのグラフを比べて違いを見いだすために、2つの棒グラフそれぞれから、最大値や最小値、集団のもつ全体的な特徴などを読み取る活動が考えられる。その際、各項目の数量を比べ、棒の長さの違いに着目し、表現できるようにすることが大切である。

○調査問題の一覧

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式				
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式		
①	(1) 5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる				4(1) ア(ア)				○				○	
	(2) 椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができる				5(1) イ(ア)				○				○	
	(3) 椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係であることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる				5(1) イ(ア) 5(2) イ(ア)				○					○
	(4) 全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する	一の位が0の二つの2位数について、情報の計算をすることができる	3(3) ア(ア)							○				○	
②	(1) テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解している		4(1) ア(イ)						○			○		
	(2) テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解している		2(1) ア(イ) 4(1) ア(ア)					○				○		
	(3) 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解している		3(1) ア(ア) 5(1) ア(イ)					○				○		
	(4) テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだだけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる		5(3) イ(ア)					○						○
③	(1) 2種類の辞書を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	()を用いた式や、加法と乗法の混同した式を場面と関連付けて読み取ることができる	4(6) イ(ア)							○			○		
	(2) 3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる	3(5) ア(イ) 4(4) ア(エ) イ(ア)							○					○
	(3) $(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる	4(6) ア(ア) 4(7) ア(ア)						○					○	
	(4) $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数) \div (1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができる	3(4) イ(ア) 4(3) ア(ア)						○				○		
④	(1) 示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解している				5(3) ア(イ)			○				○		
	(2) 運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる	4(2) ア(イ)				3(1) ア(ア)		○				○		
	(3) 二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる				3(1) ア(イ) イ(ア)			○						○
	(4) 二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる				4(1) ア(ア)			○				○		

3 日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理すること
(分配法則)

学習指導要領
注目ポイント 

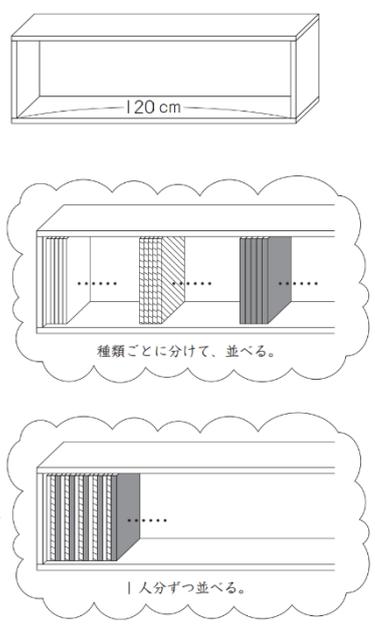
出題の趣旨 ● 数量の関係に着目して問題場面を解釈し数学的に表現・処理したり、計算に関して成り立つ性質を基に計算の仕方を考えたりすることができるかどうかをみる。

付けたい力の明確化 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかについて、判断することができる。

3 辞典やファイルを、教室の後ろに並べようとしています。

(2) けんたさんの学級では、1人が3種類のファイルを1冊ずつ使うことにしました。それぞれのファイルの厚さは、1.4 cm、1.6 cm、2 cmです。けんたさんの学級の人数は23人です。

下のような、はば120 cmのたなに、ファイルを全部並べて入れることができるかどうかを考えています。



3種類のファイル23人分を全部並べた長さは、何cmですか。

全部並べた長さの求め方を、式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

さらに、たなにファイルを全部並べて入れることができるかどうかを、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

1 入れることができる。
2 入れることができない。

正答

(2)
【求め方】(例)

- ・A 1人分のファイルの長さを求め、その23人分の長さを求めると、 $(1.4 + 1.6 + 2) \times 23 = 115$ で、115cmです。
- ・B 3種類のファイルごとに23人分の長さを求め、それらの合計を求めると、 $1.4 \times 23 + 1.6 \times 23 + 2 \times 23 = 115$ で、115 cmです。
- ・C 2種類のファイルの厚さを合計し、その23人分の長さとして、残りの1種類のファイル23人分の長さの合計を求めると、 $(1.4 + 1.6) \times 23 + 2 \times 23 = 115$ で、115 cmです。

【答え】 115 cm
【番号】 1

3 (2)



Aの求め方の()
の中の1.4+1.6+2
は何を表しているの
かな？



①必要な情報を 確かに取り出す	②情報を比較し、 関連付けて整理する	③自分なりに解決し、 知識を再構築する
・ファイルの厚さや 棚のはば、人数等 の数量を調べる。	・3種類のファイル全部並べた長さを 求める式を考え、合計を求める。 ・A、B、Cの求め方を比較検討し、そ れぞれの求め方について理解する。	・場面に応じて、どのような考え で式を立てていくとよいかに分 かる。

学級みんなのファイル
を教室の後ろの棚
に全部並べて入れる
ことができるかな？

いろいろな式の立て方や考え方が分かったよ。
ほかにどういう場合だと同じように考えられるか
調べると面白そうだね。



出題の趣旨

● 日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、表やグラフを読み取り、データの特徴や傾向を捉え考察できるかどうかをみる。

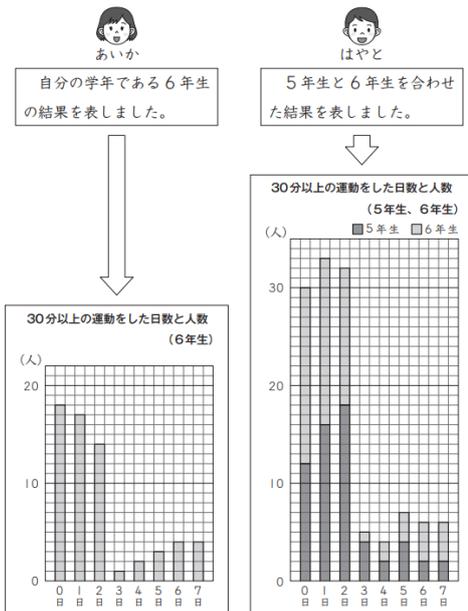
付きたい力の明確化

示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できる。

4

あいさんは、毎日を健康に過ごすためには、運動、食事、休養・すいみんが必要であることを学習しました。そこで、インターネットで運動について調べると、下のような記事を見つけました。

(3) あいさんたちは、5年生と6年生に運動カードを配って調べた結果をポスターにのせるために、30分以上の運動をした日数と人数をグラフに表示することにしました。



日常生活の事象を数理的に捉え、問題を見いだすこと

そこで、あいさんたちは、日数に着目して、2つのグラフのちがうところを、次のようにまとめました。

【「0日」についてまとめたこと】
「0日」に着目すると、次のようなちがいがあります。
6年生のグラフでは「0日」の人数が1番目に多く、5年生と6年生を合わせたグラフでは「0日」の人数が3番目に多いです。

問題解決に向けて、問題を焦点化すること

【「0日」についてまとめたこと】と同じように、「1日」に着目してまとめると、どのようになりますか。
下の□の中に、「6年生のグラフ」「5年生と6年生を合わせたグラフ」「番目」の3つの言葉と数を使って書きましょう。

【「1日」についてまとめたこと】
「1日」に着目すると、次のようなちがいがあります。
※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

焦点化した問題を数的に解釈し、数的な表現を用いて筋道立てて説明すること

解決過程や結果を振り返り、意味づけたり、活用したりすること

正答例

(3)

6年生のグラフでは、「1日」の人数が2番目に多く、5年生と6年生を合わせたグラフでは、「1日」の人数が1番目に多いです。

あいさんたちは、左の2つのグラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。

あいさん: どちらのグラフも「0日」「1日」「2日」の人数が多いということが同じですね。
はやと: でも、2つのグラフをくわしく見ると、ちがうところもありますね。

4 (3)

読み解く力
目的意識



6年生は、5、6年生と同じような傾向なのかな？

6年生のグラフと5、6年生のグラフを比較すると、特徴が似ているところと違うところがありそうだね。



読み解く力
発見・蓄積

①必要な情報を確かに取り出す

・6年生だけのグラフと5、6年生合わせたグラフを読み取る。

2つのグラフを比べるにはどこに着目して調べるとよいでしょうか。

読み解く力
分析・整理

②情報を比較し、関連付けて整理する

・日数に着目して、2つのグラフの違うところをまとめる。



読み解く力
再構築

③自分なりに解決し、知識を再構築する

・他の学年のデータを見ると傾向が変わるかどうかを考える。

さらに、このことから調べたいと思うことを考えてみよう！

【全体を通して】

- ・大問数は過去4年と同じである。小問数は昨年度と比較すると、短答式の問題が1問減り、選択式の問題が1問、記述式の問題が1問増えた。
- ・学校図書館等を利用して様々な資料から情報を得て活用するなど、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである「読書」が題材として扱われた。
- ・記述式の問題において、他者との対話や複数の資料、文章から必要な情報を取り出し、共通点や相違点等を踏まえて、自分の考えをまとめる力が問われた。例年と同様、字数制限は設けられていない。
- ・〔知識及び技能〕に関して、語句の意味や漢字の書き取りについては大問の中の小問として一体的に問われ、「伝統的な言語文化」については、大問として出題された。古典を用いた出題は平成30年度以来5年ぶりであり、音読に必要な文語のきまりや現代語訳を手掛かりとして言葉の意味を捉える問題が出題された。

【読み解く力に関連する問題】

- 大問1 総合的な学習の時間において、「社会で働く上で大切なことを考える」について考えるために、インタビューをする場面において、
 - ・聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
- 大問2 本の読み方について考えるために、読書に関する二つの文章を読む場面において、
 - ・観点を明確にして文章を比較するなどし、論理の展開や表現の効果について考えることができるかどうかをみる。
 - ・文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる。
- 大問3 興味をもったことについて調べたり考えたりしたことをレポートにまとめて書く場面において、
 - ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。
- 大問4 授業で読んだ「竹取物語」と学校図書館で見つけた現代の作家が解釈を加えて現代語で書いた「竹取物語」とを読み比べる場面において、
 - ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。



【指導改善のポイント】

- ☆単元でねらいとする資質・能力を効果的に育成する言語活動の設定
 - ・生徒が主体的に学習に取り組み、単元を通して目的意識をもち続けられるよう、生徒一人ひとりの興味・関心やキャリア形成の方向性等に応じて学習課題を設定する。
 - ・学習の系統性を重視し、生徒がこれまでの学びをつなげたり、他教科等の学習を国語科の学習に活用したりすることができる指導計画を立てる。
 - ・〔知識及び技能〕に関する指導事項を〔思考力・判断力・表現力等〕と関連付けて指導し、生徒が実際に使う機会を設けることで学習内容の定着を図る言語活動を設ける。
- ☆多様な学習の進め方ができる環境づくり
 - ・生徒自身が、学習課題を決定し、学習計画を立て、学習方法を選択して主体的に学習を進めることができる環境を整える。
 - ・学校図書館やICT等の活用、他者との対話により、自分の考えを振り返り、再度自分の考えを形成したり、新しい考えを生み出したりする学習を展開する。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式					
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	態度	主体的に学習に取り組む	選択式	短答式	記述式		
			(1)	(2)	(3)	A	B	C									
			言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化 に関する事項	話すこと・聞くこ と	書くこと	読むこと									
①	一 インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる				1 ア				○			○				
	二 インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		1 ア					○				○				
	三 相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる				1 エ				○				○			
	四 インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1 エ				○							○
②	一 「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	1 ウ							○				○			
	二 二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる						2 エ		○				○			
	三 それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる							1 ア		○				○		
	四 自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる			2 エ				2 オ	○	○						○
③	一 レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる						1 エ			○				○		
	二 漢字を書く(おし量って)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2 ウ							○					○		
	三 『「判じ絵」とは何か』と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		2 ア							○					○	
	四 『「判じ絵」の解説の面白さ』と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる						1 ウ			○						○
④	一 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる			1 ア					○					○		
	二 原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す(いと)	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる			2 イ					○					○		
	三 現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる							1 エ		○						○

1人1台端末を用いることで、文章の着目した部分や、自分の考えを記入したシート等を共有したり、ペアやグループで話し合った際の考えを整理したりと、交流を活性化することができる。

【A】 岸見一郎 『本をどう読むか』より

・本を再読する時には、前に読んでいた時と違って、同じ本でも違った読み方ができる。
 ・同じ本でもいつも読むたびに新しい発見がある。
 ・ギリシアの哲学者ヘラクレイトスの言葉
「同じ川には二度入れない」
 ・本に書いてあることは同じでも、自分は前に読んだ時とは違っている。

・前に読んだ時には読み落としていたり、強い印象を残さなかった箇所があることに気がつく。
 ・今の自分が前に読んだ時とは違うと感じられるのも読書の楽しみの一つ。

【B】 小林秀雄 『読書について』より

・ある作家の全集を読むことは非常にいいことだ。
 ・読書の楽しみの源泉にはいつも**「文は人なり」**という言葉がある。
 ・選んだ作家の全集を、日記や書簡の類に至るまで、隅から隅まで読んでみる。
 ・その作家の性格や個性は、奥の方の深いところに手探りで捜さねばならぬもの。
 ・ほんの片言隻句にも、その作家の人間全部が感じられる。
 ・文は眼の前にあり、人は奥の方にいる。

本の読み方についての考え方も多様だということが分かった。学校図書館等を活用して、読書について書かれた本や資料をもっと読み比べ、自分の考えを広げたり深めたりできるとよいな。

正答例

・ア 【A】 同じ本でもいつも読むたびに新しい発見があります。
 ・イ 私は、今まで再読をした経験がなかったけれど、「新しい発見」を体験してみたいので、以前に読んだ本をもっと一度読んでみたいと思います。



【A】も【B】も主張に関わる言葉を引用することで、伝えたいことを印象付けているね。

「同じ川には二度は入れない」って、本当にその通りだと思う。ある本を、少し時間が経ってから再読をしたことがあるけれど、同じ本なのに、以前とは感じ方が違ったんだ。一回目には読み落としていた箇所やあまり強い印象を残さなかった箇所が、二回目には、はっきりと見えてきたんだよね。

一人の作家の全集を隅から隅まで読むことで、その作家の性格や個性を知るといって読書の楽しみ方も興味深いね。

私はまだ経験がないけれど、ほんのわずかな言葉からもその作家の人間全部を感じることができるといって読んで、「文は人なり」を実感してみたいな。

私は好きな作家の本はときどき再読をしていたけれど、その作家の性格や個性を探りながら読むことができれば、読書そのものがもっと楽しくなりそうだなと思ったよ。

どちらの文章からも、これからの自分の本の読み方を考えるうえでヒントがもらえた気がするよ。学校図書館等を利用して、様々な本に触れ、読書活動を豊かなものにしていきたいね。

③再構築する。
 ・文章に対する他者の考えや、経験や知識を踏まえて、自分の考えをまとめる。

文章の中で着目した部分を抜き出して、みんなの考えと自分の経験や知識を基に、「これからの自分の本の読み方」についてまとめよう。

・ア 【B】 ある作家の全集を読むのは非常にいいことだ。
 ・イ 私は好きな作家がいるが、その作家の全集を読んでみようとは思わなかった。好きな作家のいろいろな作品を読んで、いずれは全集にも挑戦し、作品の面白さだけではなく、その作家の個性を深く知りたいと思った。
 ・ア 両方 自分は前に読んだ時とは違って、文は人なり
 ・イ 好きな作家の本を再読することが時々あり、同じ作品でも、印象が変わることがあった。それに加えて、今後は、作家の性格や個性を探りながら読んで、新しい発見ができたらよいと思う。



「本の読み方」という観点で、読書について様々な立場や考え方から書かれている本や文章を読み比べてみると考になるんじゃないかな。

本の読み方について考えることが単元の目標だね。そのためにも、読書について書かれた文章を読んで、理解したことなどと、自分の経験や知識とを結び付けて、「これからの自分の本の読み方」についてまとめる学習に取り組みだね。



○学習の目的を理解し、見通しをもつ。

【言語活動】

読書に関する文章を読んで理解したことなどを経験や知識と結び付けて、これからの自分の本の読み方について考えよう。

【学習の流れ】

- ①読書に関する二つの文章を読んで、それぞれの文章に書かれている内容を理解したり、表現の効果を捉えたりする。
- ②二つの文章の内容について、交流する。
- ③「これからの自分の本の読み方」というテーマで、自分の考えをまとめる。



- ①二つの文章を読み、それぞれから必要な情報を取り出す。
 - 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する。
- ②情報を分析・整理をする。
 - 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える。
 - 他者の考えと比較し、自分の考えを広げたり深めたりする。

2 説明的な文章を読む(本の読み方)

出題の趣旨

- 目的に応じて複数の文章を読む場面において、次のことができるかどうかをみる。
 - 事象や行為、心情を表す語句について理解すること
 - 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えること
 - 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること
 - 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること

2

中山さんは、本の読み方について考えるために【A】と【B】の文章を読んでいます。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

四 中山さんは、「A」や「B」の文章で述べられていることを参考にして、自分の本の読み方について考えました。あなたなら、これからのように本を読んでいきたいと考えますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 「A」か「B」、またはその両方の文章から、自分が着目したところを抜き出しなさい。
イ アを踏まえ、読書に関する経験や知識に触れながら、これからのように本を読んでいきたいかを具体的に書きなさい。

学習指導要領
注目ポイント

- 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。
- （「C読むこと」第二学年 才 考えの形成、共有）
- 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。
- （「我が国の言語文化に関する事項」第二学年 工 読書）



中学校 数学

【全体を通して】

- ・昨年度と比較すると、小問数は1問増えた。短答式の問題が1問増えた。選択式・記述式の問題は同数であった。
- ・大問1から5では、数と整式の乗法の計算をする問題や空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかを問う問題など、基本的な知識・技能に関する問題が出題された。
- ・累積度数の意味を理解しているかをみる問題や複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかをみる問題など、学習指導要領の改訂で移行された内容や新たに指導する内容に関する問題が出題された。
- ・イチョウの黄葉日について、複数のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題や2つの直線が平行になることを三角形の合同をもとに証明した上で、条件を変えた場合に2つの直線が平行にならない理由を、証明を振り返ることで明らかにする問題など、事象を数学的に解釈し、数学的に説明したり、表現したりする力が問われた。

【読み解く力に関連する問題】

○大問6 はじめの数にいろいろな整数を入れて計算した結果について考察する場面（整数の計算）において、

- ・「はじめの数にかける数が2、たす数が4ならば、計算結果がいつでも4の倍数になる」という予想が成り立つかどうかをみる。
- ・成り立たないことから、はじめの数にかける数とたす数がいくつならば、計算結果がいつでも4の倍数になるか、問題解決の過程や結果を振り返って考えることができるかどうかをみる。

○大問9 平行線や角の性質を基に、図形を考察する場面（合同な2つの三角形と平行線）において、

- ・二等辺三角形でない合同な2つの三角形の場合には、 $\angle EAF = \angle AEB$ とならないため、 $BC \parallel AF$ とならないことを説明できるかどうかをみる。



【指導改善のポイント】

☆数学的活動の楽しさを実感できる（数や図形に親しむ）授業・単元を計画する。

- ・事象を理想化したり抽象化したりして、事象に潜む法則を見つけたり、操作、実験などによって数や図形の性質を見だし、見いだした性質を発展させたりする活動などの機会を設ける。その過程で様々な工夫、驚き、感動や考えることの楽しさを味わえるようにする。

（大問6より）

- 成り立つ事柄を生徒自ら見いだすことができるように、具体的な数で計算する場面を設定する。
- 見いだした事柄について確かめ、事柄が成り立つ理由を検討する機会を設ける。
- 一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の条件や仮定を見直したり、共通する性質を見いだしたりして、統合的・発展的に考察する場面を設定する。

（大問9より）

- 証明を読み、結論を導くために欠かせない条件や性質を捉える場面を設定する。
- 条件を変えると成り立たない理由を検討し、説明する等の活動を設ける。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式		
			数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
①	-5、0、3、4.7、9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解している	1(1) ア (ア)				○			○		
②	$12(\frac{x}{4} + \frac{y}{6})$ を計算する	数と整式の乗法の計算をすることができる	2(1) ア (ア)				○				○	
③	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している		1(2) ア (ア)			○			○		
④	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解している			1(1) ア (イ)		○			○		
⑤	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解している			1(1) ア (ア)		○				○	
⑥	(1) はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	1(1) ア (ウ)				○				○	
	(2) はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ (イ)				○					○
	(3) はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができる	2(1) イ (イ)				○					○
⑦	(1) 1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解している			2(1) ア (ア)		○				○	
	(2) 「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			2(1) イ (ア)		○					○
⑧	(1) 晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			2(1) ア(ア) イ(ア)		○				○	
	(2) 二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができる			2(1) ア (イ)		○			○		
	(3) グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2(1) イ (イ)		○					○
⑨	(1) 2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる			2(1) イ (ア)		○					○
	(2) 二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができる			2(2) ア(イ) イ(ア)		○				○	

6 構想を立てて説明し、問題解決の過程や結果を振り返って考えること(整数の計算)

出題の趣旨

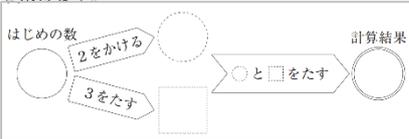
- 事象を数学的に考察する場面で、次のことができるかどうかをみる。
- (2)筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する。
- (3)問題解決の過程や結果を振り返り、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明する。

付けたい力の明確化

結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができる。

6 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。

図1



(2) 夏希さんは、前ページの計算の例の計算結果がどんな数になるかを調べています。

1のとき	6	$6 = 3 \times 2$
4のとき	15	$15 = 3 \times 5$
-5のとき	-12	$-12 = 3 \times (-4)$

夏希さんは、これらのことから、「はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも3の倍数になる」と予想しました。この予想が成り立つことは、次のように説明できます。

説明1

はじめの数として入れる整数を n とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、3をたした数は $n + 3$ と表される。
 計算結果は、
 $n \times 2 + (n + 3)$
 $= 2n + n + 3$
 $= 3n + 3$
 $= 3(n + 1)$
 $n + 1$ は整数だから、 $3(n + 1)$ は3の倍数である。
 したがって、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも3の倍数である。

ここで、夏希さんは、前ページの図1で、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果がいつでも3の倍数になるのは、「3をたす」の「3」が3の倍数であるからではないかと考えました。

調べたことから、夏希さんは、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になる」と予想しました。

この予想が成り立つことを説明します。下の説明2を完成させなさい。

説明2

はじめの数として入れる整数を n とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、6をたした数は $n + 6$ と表される。
 計算結果は、

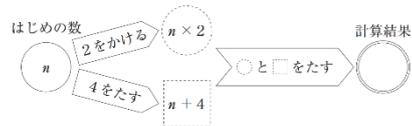
$$n \times 2 + (n + 6)$$

$$=$$

(3) 夏希さんは、7ページの図1の「2をかける」のかける数「2」は変えずに、「3をたす」のたす数「3」を4の倍数である「4」や「8」に変えれば、計算結果がいつでも4の倍数になると考えました。そして、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にける数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」と予想しました。

そこで、夏希さんは、はじめの数として入れる整数を n とし、次の図3をかき、下のように計算しました。

図3



夏希さんの計算

はじめの数として入れる整数を n とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、4をたした数は $n + 4$ と表される。
 計算結果は、
 $n \times 2 + (n + 4)$
 $= 2n + n + 4$
 $= 3n + 4$

計算結果が $3n + 4$ となることから、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にける数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」という予想は成り立たないことがわかります。

上の夏希さんの計算をもとに考えたとき、はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつならば、計算結果はいつでも4の倍数になると予想できますか。「ならば、.....になる」という形で書きなさい。

正答例

- (2) $3(n+2)$
 $n+2$ は整数だから、 $3(n+2)$ は3の倍数である。
 したがって、はじめにける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数である。
- (3) はじめの数にける数が3、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる。

6 (2) (3)



① 必要な情報を確かに取り出す

・はじめの数にいろいろな整数を入れて計算したときに、3の倍数になることを予想する。

② 情報を比較し、関連付けて整理する

・予想した事柄が成り立つことを確かめ、そのうえで条件を変えたときに、予想したことが成り立つことを説明する。

③ 自分なりに解決し、知識を再構築する

・さらに条件を変えると予想した事柄が成り立たないことから、その事柄の結論は変えずに成り立つ事柄にするための前提を、②の説明を振り返り、事柄の特徴を説明する。



4の倍数になることを説明するには、 $4 \times (\text{整数})$ の形に表す必要があるね。

9 平行線や角の性質を基に、図形を考察すること(合同な2つ三角形と平行線)

出題の趣旨

- 図形の性質を考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。
(2) 問題解決の過程や結果を振り返り評価・改善する。

🔍 付けたい力の明確化

条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができる。

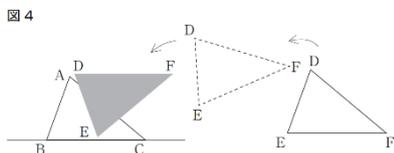
9 次の図1のように、 $CA = CB$ の二等辺三角形 ABC と、 $\triangle ABC \cong \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。



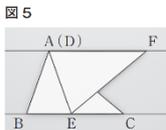
図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法2

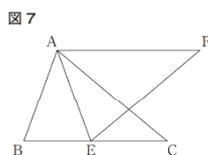
◇ $\triangle ABC$ を置いて、直線 BC をひく。そして、図4のように、 $\triangle DEF$ を回して、点 D を点 A に、点 E を直線 BC 上に置く。ただし、点 E は点 B と重ならないように置く。



◇ 図5のように、点 A と点 D が重なった点を A として、直線 AF をひく。



(2) 優奈さんは、前ページの方法2の直線 BC と直線 AF が平行になるかどうかを調べるために、次の図7をかきました。図7の $\triangle ABC$ と $\triangle AEF$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $FA = FE$ で、 $\triangle ABC \cong \triangle AEF$ です。この図において、優奈さんは $BC \parallel AF$ であることを証明することにしました。



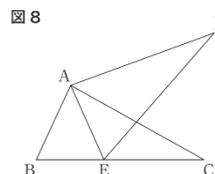
$BC \parallel AF$ であることは、次のように証明できます。

証明1

$\triangle ABC \cong \triangle AEF$ より、合同な図形の対応する辺と角はそれぞれ等しいから、
 $AB = AE$ ……①
 $\angle ABC = \angle AEF$ ……②
 $\triangle AEF$ において、二等辺三角形の底角は等しいから、
 $\angle EAF = \angle AEF$ ……③
 ②、③より、
 $\angle ABC = \angle EAF$ ……④
 また、①より、 $\triangle ABE$ は二等辺三角形である。
 二等辺三角形の底角は等しいから、
 $\angle ABE = \angle AEB$ ……⑤
 $\angle ABE = \angle ABC$ だから、④、⑤より、
 $\angle EAF = \angle AEB$
 よって、錯角が等しいから、
 $BC \parallel AF$

次に、優奈さんは、19ページの図1の2つの三角形を $\triangle ABC \cong \triangle DEF$ であることは変えずに、二等辺三角形ではない三角形に変えました。この場合も方法2でひいた2つの直線が平行になるかどうかを確かめたところ、2つの直線は平行になりませんでした。

なぜ平行にならなくなったのかを調べるために、次の図8をかきました。図8の $\triangle ABC$ と $\triangle AEF$ は二等辺三角形ではなく、 $\triangle ABC \cong \triangle AEF$ です。



優奈さんは、図8で $BC \parallel AF$ とならないのは、前ページの証明1の①から⑤のどれかが成り立たないからだと考えました。

図8のような二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、 $\angle EAF = \angle AEB$ とならないため、 $BC \parallel AF$ となりません。このことは、証明1をもとに、次のように説明することができます。

二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、証明1の **I** が成り立たないから、**II** が成り立たない。よって、 $\angle EAF = \angle AEB$ とならないから、 $BC \parallel AF$ とならない。

上の **I** には証明1の①、②、③のどれか1つが、**II** には証明1の④、⑤のどちらか1つが当てはまります。**I**、**II** に当てはまるものをそれぞれ書きなさい。

正答

(2) **I** ③ **II** ④

9 (2)



① 必要な情報を確かに取り出す

② 情報を比較し、関連付けて整理する

③ 自分なりに解決し、知識を再構築する

・ $BC \parallel AF$ であるためには、錯角にあたる $\angle EAF$ と $\angle AEB$ の大きさが等しい必要があることがわかる。

・ $\triangle ABC$ と $\triangle AEF$ が合同な二等辺三角形のとき、 $BC \parallel AF$ であることを証明する。

・ $\triangle ABC$ と $\triangle AEF$ が二等辺三角形ではない合同な2つの三角形のとき、 $BC \parallel AF$ とならないことを、②で証明したことを振り返り説明する。

2つの直線に1つの直線が交わるとき、2つの直線が平行線になるための条件は何でしたか。



二等辺三角形でない三角形の場合、2つの直線が平行にならない理由を、二等辺三角形のときに平行であることを証明したことを参考にして説明しましょう。



平行線の性質は、2直線が1つの直線に交わるとき、2直線が平行ならば、“同位角は等しい”と“錯角は等しい”だったね。



成り立たないことを説明するときは、成り立つことを参考にするとよいことがわかりました。でも、反例とはどこがちがうのかな。



中学校 英語 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

【全体を通して】

- ・大問数10問は平成31年度と同じである。小問数は17問であり、前回より4問減った。記述式問題の数は前回と比べて1問減り、短答式問題（語彙や短い文で答える問題）についても2問減った。
- ・授業において、1人1台端末を効果的に活用し、英語でやり取りしている場面を設定した問題が複数出題された。メール文を読んだり書いたりする問題や、ウェブサイトに掲載する学校紹介文を英語で書く問題が出題された。
- ・「聞くこと」においては、話された英文にあう絵や文を選択する問題、説明や意見を聞いて、概要を捉える問題が出題された。
- ・「読むこと」においては、英文を読んで適するグラフやポスターを選択する問題、意見文を読んで概要を捉えたり、その内容について自分の意見を書いたりする問題が出題された。
- ・「書くこと」においては、正確な英文を書くことができるかをみる短答式問題が出題された。また、学校紹介をまとまりのある英文で書く問題が出題された。

【読み解く力に関連する問題】

○大問8 ロボットについて書かれた意見文を読み、書き手の意見に対する自分の考えを書く場面において、

- ・社会的な話題について、短い文章の要点を捉えて、それに対する自分の考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

○大問10 英語版ウェブサイトに掲載する学校紹介文を書く場面において、

- ・日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。



【指導改善のポイント】

☆社会的な話題について、短い文章の要点を捉え、それに対する自分の考えとその理由を書くことができる指導の工夫

- ・読む前に、文章の全体像を捉えようとする意欲が向上するよう工夫する。
 - 教師と生徒によるやり取りから、読む目的を共有する。内容について、タイトルや挿絵等から推測したり想像したりする等、生徒が主体的に読めるよう工夫する。
- ・読んでいる内容について、生徒が理解できているかを把握するための発問をする。
 - 理解の深まりに応じて、フィードバック（キーワードの共有、内容に基づく発問等）を行う。
 - 内容の理解が進んでいる場合、生徒が自分の思いや考えをもてるような発問をする。
 - 生徒は、キーワードや発問内容を意識しながら、読み進める。
- ・発問に対する答えや意見等を英語を使ってペアやグループ、学級全体で共有する。
 - 生徒が自分の思いや考えをもてるよう、さらに発問を重ねる等、工夫する。
- ・読んだ内容について、自分の思いや考えを整理して書く。
 - マッピングを利用し、思考の整理を行う。思考の整理をした後、内容について、ペアやグループで説明したり質問したりする。その後、自分の考えを発展させたり深化させたりして、マッピングに情報を追加する。
 - マッピングから、内容的につながりのあるものを組み合わせ、伝えたい思いや考え、情報等、それらの順序を整理する。
 - 整理したことを英語で書いて、生徒同士で読み合う活動につなげる。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		
			聞くこと	読むこと	話すこと「やり取り」	話すこと「発表」	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式／口述式	記述式／口述式
①	(1) ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○※					○			○		
	(2) 道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する		○※					○			○		
	(3) 買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する		○※					○			○		
②	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○		
③	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○		
④	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○			○		
⑤	(1) ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○※				○			○		
	(2) 事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる		○※				○			○		
⑥	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア					○			○		
⑦	(1) 図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる		○※				○			○		
	(2) 図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる			イ			○			○		
⑧	(1) ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる			ウ			○			○		
	(2) ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる					ウ	○				○	
⑨	① 与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○		
	②	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○		
	(2) メール英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○			○		
⑩	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ	○				○	

※「学習指導要領」における「○」は、五つの領域別の目標に分類されない「知識及び技能」を示している。

社会的な話題について、短い文章の要点を捉えて、 それに対する自分の考えとその理由を書くことができる。

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I  could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?

(1) ブラウン先生が最も伝えたいことを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 We see many kinds of robots around us.
- 2 I saw a robot and it was working as a guide.
- 3 People will have fun if they live with robot pets.
- 4 Robots can change many people's lives for the better.

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

正答

(1) 4
(2) (例)
I agree with you. If robots do our housework, we will have more time.

学習指導要領
注目ポイント 

(5)書くこと
ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

目的意識	①必要な情報を確かに取り出す	②情報を比較し、関連付けて整理する	③自分なりに解決し、知識を再構築する
 読み解く力 目的意識	 読み解く力 発見・蓄積	 読み解く力 分析・整理	 読み解く力 再構築
○読む目的(・何のために読むのか・読むと何が分かるのか等)を共有する。	○意見文から、書き手が主張していることを捉える。	○ロボットが人の生活をよくするかどうかを、日常生活や自分の経験から想起する。 ○自分の意見や主張とその理由を関連付ける。	○自分の意見や主張を、根拠を示しながら、読み手に対してわかりやすく書く。

What is the robot in this picture doing?
Is it selling something?
Talk in pairs!
Tell us your ideas!



Selling...?
Guiding...?
読めば分かるかな?



Does Mr.Brown think that robots are helpful?
Yes...??
helpfulだと書かれていそうなところに下線をしてみるわ。




What can robots do for us?
Make a list!



They can...
•help with our housework.
•drive cars or buses.
•be our pets.
私はブラウン先生の意見に賛成だな。



Do you agree with Mr.Brown's opinion?
Why or why not?



20

10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを公開しています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

※ 短縮形（I'm や don't など）は1語と数え、符号（, や ? など）は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】

正答

(例)
Our school has a school festival in October. In the festival, we have a chorus contest and we practice hard to win the gold prize. Many people come to listen to our songs.

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

Blank writing area with horizontal lines for the student's response.

学習指導要領
注目ポイント

(5)書くこと
イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

①必要な情報を確かに取り出す

②情報を比較し、関連付けて整理する

③自分なりに解決し、知識を再構築する



○学校生活を振り返り、書きたい内容を想起する。

We have many school events.

Which is your favorite one?

Talk in pairs!



Let's map our thoughts!



○読み手を意識しながら、書きたい内容について整理する。



マッピングを進めていくと、私は文化祭について伝えたいことがたくさんあることが分かった！



○文と文の順序や、相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書く。

Who will read your writing?

Japanese people?
Students overseas?

Where will they find your writing?

In a book?
On our school website?



学校のホームページに載せるから、短く分かりやすく書いた方がよいな。

海外の生徒に、日本の文化祭を知ってもらうため、自分が体験したことも書くぞ！

児童生徒質問紙

○全体を通して

〔項目数〕 小学校：59 項目（昨年度より 10 項目減）
 中学校：72 項目（昨年度より 3 項目増）

〔特記事項〕

- ・部活動や英語科に関する項目の一部を除いて、小中学校どちらも同じ内容に関する項目であった。
- ・自己有用感等について尋ねる項目が、昨年度より 3 項目加えられた。
- ・学校図書館・学校図書室や地域の図書館の活用頻度を尋ねる項目が加えられた。
- ・中学校では、部活動への参加や活動時間を尋ねる項目が加えられた。
- ・算数〔数学〕科についての意識を尋ねる項目が減少し、国語科についての意識を尋ねる項目が加えられた。
- ・理科についての意識を尋ねる項目がなくなり、英語科についての意識を尋ねる項目が、小学校で 5 項目、中学校で 14 項目加えられた。家庭学習で ICT 機器の使用を尋ねる項目が含まれている。
- ・ICT を含め、学校の授業時間以外の学習状況について尋ねる項目が加えられた。

*1 平成 31 年度にも尋ねられた項目 *2 令和 3 年度にも尋ねられた項目

○今年度新たに加えられた項目

（下線部は変更箇所）

R5番号		質問項目
小学校	中学校	
挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感等について		
6		先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。*1
14		友達関係に満足している。
15		普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。
学習習慣や学習環境等について		
19		学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含みます）。*2
21		昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか。*1
	25	学校の部活動に参加していますか。*1
	26	普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活動に参加していますか。
	27	学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）、 <u>活動を行った日は</u> 、平均してどれくらいの時間、活動をしますか。*1
	28	学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校が休みの日に活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか。

38	42	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。*1
地域や社会に関わる活動の状況等について		
27	31	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う。*1
28	32	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。*1
教科に関する項目について		
47		国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいる。
48		国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている。
49		国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。
50		国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している。
	51	行書の基礎的な書き方（「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」など）を理解して書いている。
	52	国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫している。
	53	国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いている。
	54	国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえている。
55	59	英語の勉強は好きだ。*1（中学校のみ）*2
56	60	英語の勉強は大切だ。*1（中学校のみ）
	61	英語の授業の内容はよく分かる。*1
	62	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。*1
57	63	将来、積極的に英語を使うような生活をしたたり職業に就いたりしたいと思う。*1（中学校のみ）
58		これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどの ICT 機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）。*2
	64	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）。*1*2
59	65	家庭学習の課題（宿題）として、どの程度 PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。

あなたが1, 2年生のときに受けた授業について、当てはまるものを1つずつ選んでください。

	66	英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う。*1
	67	英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う。*1
	68	原稿などの準備をすることなく,(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う。*1
	69	スピーチやプレゼンテーションなど,まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う。*1
	70	自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思う。*1
	71	聞いたり読んだりしたことについて,生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思う。*1
	72	聞いたり読んだりしたことについて,その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思う。*1

○令和4年度から文言が変更された項目(※下線部は変更箇所)

R5番号		質問項目
小学校	中学校	
20		学校の授業時間以外に, <u>普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 読書をしますか(電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書, 漫画や雑誌は除きます。)</u> *3
26	30	地域や社会をよくするために <u>何かしてみたいと思う。</u> *4
31	35	学校の授業時間以外に, <u>普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, PC・タブレットなどのICT機器を, 勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除きます。)</u> *5

*3 令和4年度は, 「学校の授業時間以外に, 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 読書をしますか(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除く。)」

*4 令和4年度は, 「地域や社会をよくするために 何をすべきかを考えることがありますか。」

*5 令和4年度は, 「普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を, 勉強のために使っていますか。」

学校質問紙

○全体を通して

〔項目数〕 小学校：81項目（昨年度より4項目減）

中学校：89項目（昨年度より6項目増）

※小中学校ともに新型コロナウイルス感染症の影響に関する質問項目1項目を含む。

〔特記事項〕

- ・個に応じた指導方法に関する項目が削除され、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況の項目やICTを活用した学習状況の項目の中に、一人一人の学びや状況を尋ねる内容が含まれた。
- ・理科の指導方法に関する項目に代わって、英語科の指導方法に関する項目が加えられた。授業以外で英語に触れるようにしているかを尋ねる内容も加わった。
- ・ICTを活用した学習状況や家庭や地域との連携等に関する項目において、教員の業務負担軽減の効果を尋ねる内容が加えられた。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する項目が昨年度の3項目から、今年度は1項目に減少した。
- ・国語科の指導方法に関する項目において、児童・生徒が身に付ける力を具体的に示し、主体的・対話的で深い学びの視点での指導をどの程度行ったか尋ねる内容となった。

質問項目の種類	項目数		新たに追加あり
	R5		
	小学校	中学校	
○ 学校規模等	7	7	○
○ 生徒指導等	6	6	○
○ 学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況	12	12	○
○ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	11	11	○
○ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法	4	4	
○ 学習評価	1	1	○
○ 国語科の指導方法	4	4	○
○ 算数〔数学〕科の指導方法	3	3	
○ 英語科の指導方法	3	11	○
○ ICTを活用した学習状況	14	14	○
○ 特別支援教育	1	1	
○ 小学校教育と中学校教育の連携	3	3	
○ 家庭や地域との連携等	5	5	○
○ 家庭学習	3	3	○
○ 調査結果の活用	3	3	
○ 新型コロナウイルス感染症の影響	1	1	
合 計	81	89	

○今年度新たに加えられた項目

(下線部は変更箇所)

R5 番号		質問項目
小学校	中学校	
学校規模等		
7		日本語指導が必要な児童〔生徒〕数は、何人ですか。
生徒指導等		
8		熱意をもって勉強している。*1
10		礼儀正しい。*1
学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況		
21		言語活動について、 <u>国語科を要としつつ、各教科の特質に応じて</u> 、学校全体として取り組んでいる。*2
学習評価		
41		<u>学習評価の方針を児童〔生徒〕に示した上で</u> 、児童〔生徒〕の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童〔生徒〕の学習改善に生かすことを心がけましたか。*2
英語科の指導方法		
	56	英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができると思いますか。*1
49		学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか。*2
	57	全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を踏まえて、言語活動の充実等の授業改善や、定期考査問題やパフォーマンステストの改善等の学習評価の改善に取り組んでいますか。*2
50	58	英語の授業以外にも児童〔生徒〕が英語に触れる機会（イングリッシュキャンプ、English Day、昼休みの英語での放送等）をどの程度設けていますか。
51	59	家庭学習の課題（宿題）として、児童〔生徒〕にPC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の学習をどの程度行わせていますか。
調査対象である第3学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、次のような指導をどの程度行いましたか。		
	49	英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動 *1
	50	英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動 *1
	51	原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動 *1

	52	スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動 *1
	53	自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動 *1
	54	聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動 *1
	55	聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動 *1

ICTを活用した学習状況

あなたの学校では、調査対象である第6学年の児童〔第3学年の生徒〕に対して、次のような場面で児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。

60	68	児童〔生徒〕が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面
64	72	児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、以下のような用途でどの程度活用していますか。
		(3) 外国人児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援 (4) 児童〔生徒〕の心身の状況の把握 (5) 児童〔生徒〕に対するオンラインを活用した相談・支援
65	73	障害のある児童〔生徒〕が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を実施しましたか。

家庭や地域との連携等

73	81	(72)(80)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか。
74	82	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。

家庭学習

調査対象である第6学年の児童〔第3学年の生徒〕に対して、前年度までに、次のような取組を行いましたか。

75	83	家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図る*1*2
----	----	------------------------------------

○令和4年度から文言が変更された項目(※下線部は変更箇所)

R5番号		質問項目
小学校	中学校	
16		ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の <u>優良事例を十分に取り入れていますか。</u> *3
17		ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化(クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等)に <u>取り組んでいますか。</u> *4
18		<u>教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成している。</u> *1 *5

*1 平成31年度にも尋ねられた項目

*3 令和4年度は「ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか。」

*4 令和4年度は「ICTを活用した校務の効率化を通じて、次の業務は軽減しましたか。」

(1) 児童生徒の出欠・遅刻に関する事務

(2) 家庭への調査等に関する事務(個別面談等の日程調整や学校評価アンケートなど)

(3) 学校からのお知らせ(学校通信等)

(4) 教職員等会議に関する事務

(5) 教職員の書類作成等その他の事務

*5 令和3年度および令和4年度は「指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか。」

○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取組状況についての項目

R5番号		質問項目
小学校	中学校	
		調査対象である第6学年の児童〔第3学年の生徒〕は、次の事項にどの程度当てはまりますか。
26		児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている。
27		児童〔生徒〕は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている。
28		児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている。
29		児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
30		児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている。
		調査対象である第6学年の児童〔第3学年の生徒〕に対する指導に関して、前年度までに、次のことをどの程度行いましたか。
31		学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫している。*6

32	学習指導において、児童〔生徒〕が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している。*6
33	授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた。
34	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした。
35	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた。
36	調査対象である第6学年の児童〔第3学年の生徒〕に対する指導に関して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか。*6

*6 今年度、新しく追加された項目

○国語科の指導方法についての項目

R5 番号		質 問 項 目
小学校	中学校	
調査対象である第6学年の児童〔第3学年の生徒〕に対する国語の授業において、前年度までに、次のような指導をどの程度行いましたか。		
42		自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導
	42	行書の基礎的な書き方（「点画の連続」や「点画の省略」，「筆順の変化」など）を理解して書くことができるような指導
43		互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導
	43	自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導
44		互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導
	44	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導
45		登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導
	45	文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導